

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム せせらぎの森 (ななかまどユニット)	評価実施年月日	平成20年12月2日
評価実施構成員氏名	清野 なぎさ ・ 森下 大介 ・ 塚本 絵美 ・ 神 千鶴 ・ 太田 美幸 ・ 今田 秀輔 ・ 佐藤 優紀 ・ 斉藤 真理		
記録者氏名	清野 なぎさ	記録年月日	平成20年12月10日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「穏やかで楽しい尊厳ある暮らしを保障する。」「その人らしいあたりまえの暮らしを保障する」という理念を掲げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>スタッフがいつも確認出来るようにスタッフルームに掲示してある。また、ユニット会議などを通して機会を見ながら説明などを行っているが、徹底されていないこともある。</p>	○	<p>取り組んではいるが、不十分などところがあるので、定期的に理念を振り返る等の機会を設けながら、実践に向け改善していきたい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>2ヶ月に一度運営推進会議を行い、地域の民生委員 町内会長 ご家族に参加を働きかけ、理解していただける様に取り組んでいる。また、ご家族に対しては毎月「せせらぎ通信」にて、ホームでの生活している様子や、外出での写真を掲載し、理解を呼びかけている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>買い物や散歩などの時に近隣の方々と挨拶を交わすなどしている。ホームの正面に小学校があり、小学生が定期的にボランティア(話相手 絵を書く 歌を唄う)に来てくれるなどしており、気軽に立ち寄れるホーム作りを目指している。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に参加し、回覧板で行事などのお知らせはあるが、現状として実質的な参加は少ない。地域の祭り行事や小学校の花壇清掃、発表会などで声がかかった際には積極的な参加を心がけている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>自治会単位ではないが、施設長がグループホーム協会の役員であり、管理者が東区管理者連絡会議副代表や包括支援センター運営会議の運営委員になっていることで積極的に色々な情報を収集することが出来、様々な場面で話し合うことが出来ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義や目的を全職員で理解し、自己評価に取り組んでいる。	○	評価の為だけでなく、日常の中で活かせるようにしていくと共に、自己を振り返り改善していくよう心がける。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度民生委員 町内会長 ご家族 地域包括支援センターCMIに参加していただくように働きをかけているが、自己評価 外部評価に基づいた話し合いは行っていない。	○	今回の評価を基に、情報開示を行うと共に、ご意見・ご感想をいただけたら良いと考えている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要な時には連絡を取り、相談・情報交換を行なっている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今のところ制度を利用する必要性のある入居者が居ないのが現状である為、職員が全てを把握している訳ではない。	○	今後、必要があるなしに関係なく、勉強会を開いたり、制度について勉強出来る機会を設けるようにしていく。また、資料の配布などを行う。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設長 管理者からの日々の指導により、虐待はしないという理念は全職員の中に浸透している。利用者本位の考え方をと、いつでも意識出来るように、支援の方法などはユニットごとに日常的に話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の見学から、料金、緊急時などの対応について詳細に説明をして理解を得るようにしている。契約を結ぶ際、または解約の際には契約書、重要事項説明者を用い、ご家族が納得いただける様、話し合っている。今後のことも予測した上での話し合いも行っている。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設長をはじめ、管理者、職員は意見・不満などを言ってもらえる関係作りに努めている。また、そのような事があった時には職員に周知、話し合いを行っている。また、職員それぞれ受け止め方の違い、誤解のない様に注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月送っている「せせらぎ通信」に個々の状況を記載し送付している。面会時には日常の様子を必ず伝えている。金銭の出納に関しては、通信発行時と一緒に領収書などを同封している。また、健康状態に異変があったり、往診時、受診時に医師より説明・指示があった際には速やかに電話などでご家族に連絡している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	口頭での意見などに関してはすぐに即運営に反映出来るように努めている。また、ユニット入り口に意見箱を設置しており、重要事項説明書には国保連窓口と社協などの苦情担当窓口の案内を載せ、ユニット内にも掲示している。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃からコミュニケーションを図るようにし、意見・要望など聞けるように努めている。また、ユニット会議などでも個々の意見を出し合いながら、反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況に応じ、職員と話し合いながら勤務時間の変更、調整などを行っている。また、管理者は出来るだけ日常のシフトには入らず、緊急時や状況の変化にも24時間いつでも対応出来る体制をとっている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員による援助を心がけている。新しい職員が入る時も入居者一人一人に紹介すると共に既存の職員がフォローやバックアップの体制をとる様にしている。また、いちようユニットとも普段から交流を持ち、顔なじみの関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修に参加できる機会のある時には順番に職員に参加してもらっている。また、ユニット会議や、普段の様子をみて、気がついた時にはその都度説明や話し合いをしている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	東区管理者連絡会議に参加している。その中での交流会(見学会)など積極的に行い、ネットワーク作りをすると共に、様々なケアのあり方を勉強し、質の向上を目指すよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
○職員のストレス軽減に向けた取り組み 21 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	特に休憩時間は決まっていないが、現場の状況を見て自由に喫煙など行っても良いようにしている。日頃から意見や要望には耳を傾け、個々の自主性を尊重している為、ストレスの多い環境ではないと捉えている。		
○向上心をもって働き続けるための取り組み 22 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員個々の実績や努力を把握している。職員の資格取得に向けての支援なども行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
○初期に築く本人との信頼関係 23 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前に入居に至る状況や背景、生活状況などを可能な限り把握し、本人の不安を少しでも軽減できるように努めている。また、本人とも面談し、少しでも馴染んで安心した生活が出来るよう、まずは信頼関係作りを行っている。		
○初期に築く家族との信頼関係 24 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の不安や希望などを明確にし、どのような対応が出来るのかホーム側の意向を伝えながら話し合い、理解をいただいた上で契約を結んでいる。		
○初期対応の見極めと支援 25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	「その時」何を一番に優先しなければならないのか、優先順位をつけ、柔軟な対応を心がけている。もし、今の段階で他のサービスが必要であった時には情報を提供・紹介している。		
○馴染みながらのサービス利用 26 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人にはなるべく入居前に見学に来てもらい、納得された上での入居にしている。入居前にご家族から情報をこまかく収集し、それをもとに職員が関わり、ご本人が不安にならないように努めている。入居後は細かく記録し、職員で共有できるようにしている。また、ご家族にも様子を伝え、協力もいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p> <p>個々に合わせた関わりを持つようにしている。ご本人の気分、体調に合わせてながら、好み、能力に合わせた活動を一緒に行っている。また、感情表現などお互い自由に表現出来るよう、自然に対応している。</p>	○	単一的にならないようにこれからも毎日の些細な言動にも注目し、個々の得意なこと、やりたいことを見極めていく。
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p> <p>ご家族面会時など日常の様子を伝え、情報交換をしている。ご本人に状態の変化が見られた際にはすぐに連絡を取り経過報告するなどし、協力関係を築き一緒に支えあえるように努めている。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p> <p>ご本人・ご家族の話から双方の関係を理解し、安心した関係が保たれるように努めている。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p> <p>ご本人がこれまでに大切にしてきた、馴染みの人や場所と関係が途切れないように努力している。いきなりの外出や外泊(ご家族のみ)にも柔軟に対応している。</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p> <p>気の合う同居者を把握している。買い物や外出など気の合うもの同士を組み合わせるなどし、個々が孤立しない様に配慮している。また、やり取りがある時には必要以上に関わらない様にしている。いちようユニットとも行き来するようにしている。</p>		
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p> <p>他の事業所へ移動された方に関してはご家族から承諾をいただいた方のみ、面会などをされてもらっている。ご家族から要望があれば、相談など受けるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>39 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>ご本人、ご家族の状況に応じて、通院や訪問診療など柔軟に対応している。また、外出や外泊など、ご本人の希望、状態を考慮し支援している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>○地域資源との協働</p> <p>40 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>消防とは防災訓練を通して、連携が取れている。民生委員やボランティア、警察、文化・教育機関と協力しながらの支援の準備は出来ている。</p>		
<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>41 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との連携は出来ており、必要な時には柔軟に対応出来る準備は出来ている。</p>		
<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>42 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議などで包括支援センターの職員との交流はあり、情報交換など出来る関係にはなっているが、まだご本人の支援に結びついてはいない。</p>	○	<p>今後も運営推進会議などを通じ、よりよい関係を築き、情報を得たり支援に関する情報交換を行ない、本人本位の支援に結び付けていけるように努めていく。</p>
<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>43 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>	<p>入居時に馴染みの医療機関への受診の希望があれば継続し、特に希望がない場合には説明を行い、ホーム協力医療機関を紹介している。隔週で往診があり、専門的な治療が必要な場合には専門医を紹介してくれるなどしている。</p>		
<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>ホーム協力医療機関の医師が認知症にも熱心な対応をしてくれている。また、地域の精神科医師と関係を築きながら安心して受診・治療を受けられるように支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホーム協力医療機関より、看護師が週1で訪問している他、何か心配なことがある時には相談しながら日常の健康管理をしている。また緊急時にもすぐに連絡を取り、指示をもらっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご家族、病院側と情報交換を密に行ない、頻繁にお見舞いに行くようにして、本人の不安や混乱のない様に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居契約時に看取りの指針をご家族にお渡しし、重度化した場合の同意書をご家族よりいただいている。また終末期に入った場合にはご家族、かかりつけ医師と密に話し合い、支援をしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度・終末期の入居者がより良く過ごせるように「できること・できないこと」をしっかりと見極め、またご家族・かかりつけ医ともきっちり話し合っている。また、常に最悪のケースを頭に置き、取り組んでいる。		
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	希望や状態を十分に理解した上できちんとご本人に説明して、ある程度の納得を得てから移動するようにしている。また、必要に応じて、次のサービス先への連絡や、情報提供も行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員は雇用時に個人情報に関する誓約書に同意・サイン(記録や個人情報の持ち出し禁止など)しており、それに基づいて業務に当たっている。また、言動に関して常にも声の高さなどに留意し、プライバシーや誇りを損ねないように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	二者択一の質問にするなどし、個々の能力に合わせ、選択出来る場面を提供している。ゆっくりあせらず話を傾聴している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事をおやつ時間は決まっているが、それも本人の状態に合わせて変更している。入居者の個々の時間を有意義に過ごしてもらえるようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	髪を切りたいなどの希望があった時には、訪問美容を利用していただいている他、近隣の美容室へ行かれている。着替えなど自己決定が難しい方には職員と一緒に考え、季節感のあるその人らしい装いになるようにしている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その人の能力に合わせて、出来ることを体調をみながら一緒に行なっている。中には毎日の習慣になっている方もいる。それぞれの好みを取り入れたメニューを作っており、冷蔵庫には全入居者の嗜好や禁食を載せたものを掲示しており、全職員で周知している。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	煙草については職員で管理させていただいており、吸いたいときに声をかけてもらい、喫煙スペースでのみ楽しませられている。飲酒についてはレクリエーションやお風呂上りなどに召し上がっている。個々に好きなものを把握しており、日常的に食事やおやつに盛り込んでいる。	○	ご自分で好きなおやつや飲み物を買って来れる機会をもっと増やしたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表に記入し、個別にトイレ誘導などを行なっている。また、オムツ類の必要な方に関してはご本人に合わせたリハビリパンツ・パットなど使用しているが、排泄パターンの把握、顔色、表情、しぐさなどを観察し、出来るだけ失禁のないように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日、時間は特に決めていないが、毎日午後から行なうことが多い。希望者や入浴日数の間隔の空いた方から先に優先している。入浴の拒否が強い方に関しては夜間浴や銭湯などに一緒に行くなどし、いつでも入浴できるようにしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	無理強いのない程度に日中の活動を促し、生活にリズムがあるようにしている。夜間眠れない入居者にはあたたかい飲み物を提供したり、一緒にお話をしたりと、安心出来るようにしている。また、日中も本人の体調などに合わせ、休息できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	それぞれが日々の生活の中で出来ることを自然に行なえるように支援しているが退屈そうにしていることも多くみられる。	○	それぞれの能力に合わせ、もう少し多く活動出来る場面を作りたい。室内で出来ること、興味をひくことを皆で検討したい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望で3000円ほどの現金を持っている方もいるが基本的にはホームで管理している。ご自分で持ち、支払える方には見守り、必要時には助言をしている。また購入後はお買い物帳に記入し、必要時にはご家族やご本人がいつでも見れるようになっている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎月2回から3回入居者の嗜好に沿ったユニット全体での外出レクを行なっている。それ以外でも天気の良い日などには、希望者を募り、ドライブや公園などにハイキングに行っている。また日常の買い物など、入居者と行くようにし一緒に買い物するようにしているが全ての入居者の希望に沿っているわけではない。	○	一人一人の希望を聞きだし、可能な限りの外出をしていきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月2回から3回行っている外出行事には必ず入居者の嗜好に沿ったもの(果物狩り、温泉など)を取り入れ、それぞれが楽しんでいただけるようにしている。また、墓参りや法事などの節目の行事やお正月などの帰省時はご家族の協力を得ながら、体調面を考慮し、自由に行けるようにしている。また、職員が必要な場合には同行できる(家族のお見舞いなど)体制にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○電話や手紙の支援</p> <p>63 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>いつでも電話をかけられるようになっている。また、自分でボタンを押せない方には職員が代行している。入居者に電話がかかってきた場合には柔軟に対応している。手紙については入居者からの自発的な希望がない為、行なっていない。</p>		
<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>64 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>面会時間は特に決めていない。お好きな場所(居室 居間など)で過ごしてもらい、おやつの中には一緒に召し上がっていただくなど、家族の時間をゆっくり楽しめるよう、配慮している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>65 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>管理者が身体拘束に関わる研修などに参加し、日常的に職員に伝えている。また、言葉一つでも拘束になることなどを細かく伝え、拘束はしていない。</p>	○	<p>まずは人としてやってはいけないこととして理解している為、全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解しているわけではない。今後更なる向上のためにも職員が身体拘束について学べる研修などに参加できるようにしていく。</p>
<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>66 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日中は玄関など施錠せず、いつでも外出出来るようになっている。玄関を開けると音楽が流れるようになっており、入居者の安全も保たれている。</p>		
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>ホールでは常に職員がおり、見守りを行なっている。また、入居者に違和感を感じさせないように、同じ空間で記録や日誌を書くなどし、さりげなく業務も行なっている。居室の戸を閉めるのはご本人の自由としているため、プライバシーは保たれている。常に入居者の所在を確認し、職員間で伝え合っている。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>個々の状態に応じ、危険と思われる物は職員が管理し、目の届かないところに保管している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット・事故発生に関しては個別で報告書を作成し、一人ひとり状態に応じた事故防止に取り組んでいる。毎朝の送りやユニット会議にて密に話し合い、再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応についてはユニット会議などで説明はしている。救急救命の講習については受講しているものといないものがある。	○	今後消防などに以来し、研修などを検討している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を消防職員立会いのもと、入居者も参加して行っている。訓練の中で避難経路の確認、消火器の使用法、通報装置の使用法と設備の確認などを行っている。緊急時連絡網を作成し、電話の近くに掲示している。また、ホームからすぐのところに職員が数名居住しており、緊急時にはすぐに駆けつけられる体制がある。	○	地域の人々の協力については今後、運営推進会議などを通してお願いしていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族の面会時などに状態報告をこまめに行っている。その時々状態を理解していただくように説明している。また緊急時には電話で即対応するようにしてし、ご家族と一緒に対応策を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	常に様子を観察している。個々の体調変化を見逃さず、食欲や顔色など様子変化時はバイタルを再度確認し、掛かりつけの医師に相談し、場合によっては受診している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋は個人ファイルに綴じており、いつでも内服内容を確認出来るようになっている。また、飲み忘れ、誤薬のないように薬には個人名、服薬日が記載してある。処方が変わった際には連絡ノートに薬名、注意点などを管理者が書き、職員全員に周知し症状の観察に努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材を使用し、食事などに提供している。また、1日の水分摂取量を1500ccをめどにし、状況に応じて体操や散歩など体を動かす機会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせ、毎食後口腔ケアを実施している。また、協力医療機関の歯科が訪問の際には歯磨き指導や、義歯の取り扱いについて入居者職員ともに説明を受けている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量は随時チェック表に記入し、いつでも確認出来るようになっている。メニューをあらかじめ作り、バランスの取れた食事を提供している。摂取量が不足している方が居た時には時間を決めず、食べれる時に、食べれる物を提供している。また、食べやすく形態を変えるなどしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	市や保健所から送られてくる資料などをもとに掃除の仕方など職員に伝え、掃除など次亜塩素酸ナトリウムを使用している。職員、入居者ともにインフルエンザの予防接種を受けたり、日常から手洗い、うがいの実施など、予防に努めている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、ふきんなどは毎日消毒している。食材は無駄なく使用しており、賞味期限切れの物は使用していない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏場は入居者と一緒の花を植えたプランターなどを飾っているが冬場は彩がなく、寂しい感じがある。外出の前後に一休み出来るようにベンチを置いている。	○	年中いつでも親しみやすく、明るいイメージを継続したい。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	対面キッチンになっており、調理の音や匂いを感じられるようになっている。季節の飾り物をするなど工夫している。お風呂は一般と同じ大きさの浴槽を使っている。トイレ掃除は1日2回行い、汚れたらその都度掃除することで気持ち良く使用出来る様に心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	椅子やソファを多めに置き、いつでもどこでも気軽にその時の気分でくつろげる空間を作っている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にはご家族・ご本人と相談し、本人の使用していたなじみの家具などを持って来ていただき、可能な限り、これまでと変わらない環境作りに努めている。また、家族との写真など壁に飾り、居心地の良い空間作りをしている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日の掃除の時には換気を行っている。冬期間暖房は各居室ごとに温度が調節出来るようになっており、本人に合わせた暖かさになっている。また、居間、全居室などに温度計、湿度計を設置し、対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	入居者が歩行しやすい様に共有部分には手すりが設置してある。また、トイレや浴室にも手すりが設置してあり、自立出来る様に工夫されている。ユニット内1周歩けるようになっており、歩行運動の場にもなっている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室は間違えない様に個別に手作りの表札を作成している。本人の混乱がないように、説明や援助を行うとき等、職員が皆統一したものになる様に話し合っている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋上があり、ベンチを設置している。職員と一緒にひなたぼっこやたばこを吸う等思い思いに使用している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ② 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・業務やマニュアルを必要最低限にしか決めておらず、その時々で臨機応変に対応出来るよう、現場の職員がそれぞれ考え意見を出し合って実践しようとしている。
- ・レクレーションや外出を多くしており、入居者だけではなく職員も楽しみ、お互いにとってのストレス発散になっている。また、その様子は細かく、通信を通して近況報告と共にご家族にお知らせしている。